

学会便り

第112回シンポジウム

「今後の航空機産業における軽金属材料の役割」

Role of the Light Metal Materials in the Future Aircraft Industry

森 久史

Hisashi MORI

1. はじめに

航空機産業は今後大きな成長が見込まれる分野であり、将来のわが国の経済のけん引役として期待されている。この分野においては、軽量高剛性素材への要求は高く、軽金属材料が担う役割は大きいと考えられる。今回、今後の航空機産業における軽金属材料の役割を考える一つの機会として本シンポジウムを企画した。大学教員・学生、重工業、軽金属製造業など、幅広い分野から30名の方々に参加いただいた。

2. シンポジウムの概要

本シンポジウムでは航空機産業分野における専門家の方々から関連技術の動向、開発適用事例などを紹介していただいた。経産省 新倉氏からは「我が国の航空機産業の現状と今後の展望」と題して、産業政策の方向性、航空機産業の日本の全体展望、サプライチェーン強化の取り組み、次世代の素材材の現状と課題について説明いただいた。三菱重工業(株)高橋氏からは「民間航空機の開発動向」と題して、三菱重工における航空機製造の体制、民間航空機の基礎、民間航空機の製品の特徴、航空業界の特徴、最新の技術動向について紹介された。(株)UACJ 戸次氏からは「航空機用軽金属材料」と題してジュラルミンの開発経緯、アルミニウム合金の基礎、最新のアルミニウム合金の研究開発が紹介された。

東レ(株)佐藤氏からは「航空機用CFRP技術」と題して、繊維および複合化に関する製造技術、CFRPの力学特性、炭素繊維複合材の事業展開について紹介された。川崎重工業(株)石川氏からは「航空機用金属材料の加工・接合技術」について、航空機製造の特徴、加工・接合技術、最近の研究開発およびその適用動向が紹介された。最後の総合討論では、航空機産業の政策、部品や機体の製造技術、CFRPの修理技術、検査技術、航空機産業の技術者に求められることなど、多岐にわたる討論が行われた。なお、時間の制約上、参加者の質問すべてに対応できなかったことをお詫び申し上げる。



図1 シンポジウム風景



図2 総合討論風景

3. おわりに

本シンポジウムでは、航空機産業の政策・全体像・歴史、航空機の基礎技術、製造・材料・加工・接合技術について説明があり、航空機産業に関する概略について理解できたと考えられる。今後、航空機産業への適用を目指し、軽金属材料の技術開発が、CFRPと競合しながら発展することを期待する。最後に、担当講師の方々に厚くお礼申し上げます。

世話人：三菱重工業(株) 高橋 孝幸、(株)IHI 尾崎 智道、
(株)UACJ 森 久史、水越 秀雄、日本大学 星野 倫彦